

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079100147
法人名	有限会社 弘洋
事業所名	グループホーム 青空
所在地	福岡県みやま市高田町海津 1 4 6 1 番地 2 (電 話) 0 9 4 4 - 6 2 - 6 1 5 1

評価機関名	福岡県社会福祉協議会				
所在地	福岡県春日市原町 3－1－7				
訪問調査日	20年	11月	20日	評価確定日	21年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成20年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 4 年 6 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	8 人	常勤 8人	非常勤 0人	常勤換算 3.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	21,000 円		その他の経費（月額）	45,000 円	
敷 金	有（ 円）		無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり	1,000 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年11月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかべまき内科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は古くからの集落の中にあり、地域に溶け込んだ一階建ての建物である。利用者と職員は良くコミュニケーションが取れており、足腰が弱らないようにしたいとの利用者の意向を取り入れ、天候や体調に配慮した散歩はもとより、フィンガースポーツや温熱療法、事業所独自でつくりあげた青空体操、リズム体操を午前中にほぼ毎日しており、その効果も現れている。昼食時は食後のテーブルで歌も飛び出すなど、職員と利用者の和やかな時間が持たれている。代表者は開設当初から「笑顔を絶やさない」事をモットーにしており、全職員がまとまり笑顔で日々のケアにあたっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	前回評価の改善課題である「災害対策の備品の準備」については改善シートを作成し、全職員で話し合い、毛布やトイレ等非常用備品を準備し、改善を行った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
重点項目②	自己評価は全職員の意見を聞き、集約したものを再度職員に図り、管理者と計画作成担当で作り上げている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
重点項目③	現状や活動状況、外部評価等を報告し、委員から意見や要望を貰うようにしている。委員からの意見により、市窓口に事業所のパンフレットが置かれるようになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部8, 9)
重点項目④	家族からの意見等が出やすいよう、意見箱を自由ノートに代えて置いている。来訪時には家族等の意見、不満、希望等を引き出すように声かけをしている。第三者相談窓口については利用開始時に説明をし、玄関にも見やすいポスターを掲示している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
重点項目④	地元小学校との1～2ヶ月毎の交流や、ほぼ毎朝の散歩時の挨拶、お彼岸のお参り、盆踊り等へ出向いたりして交流を図っている。また、事業所での青空喫茶に近隣住民の参加を得ている。毎日の散歩中は目についたごみ拾いや草取りをする等積極的に地域との交流が持てるよう努めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域との関わり」を謳い、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎朝のミーティング時に理念から具体的ケアについて、意見の統一を図り、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校との1～2ヶ月毎の交流や、ほぼ毎朝の散歩時の挨拶、お彼岸のお参り、盆踊り等へ出向いたりして交流を図っている。また、事業所での青空喫茶に近隣住民の参加を得ている。毎日の散歩中は目についたごみ拾いや草取りをする等積極的に地域との交流が持てるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の意見を聞き集約したものを再度職員に図り、管理者と計画作成担当者で作り上げている。前回評価の改善課題である「災害対策の備品の準備」については、改善シートを作成し全職員と話し合い、毛布、トイレ等の非常用備品の準備をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い現状や活動状況、外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聞くようにしている。意見により、市窓口に事業所のパンフレットが置かれるようになった。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は定期的に出向き、行政担当者と介護更新手続きや相談等で連携を図っている。「市民への情報提供として事業所の空き情報がわかるようにしてほしい」等、市への働きかけを行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員は外部研修・内部伝達講習等で制度についての学習をしている。テキスト、パンフレットや研修記録があり、職員には研修記録を回覧している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の事業所便りを全家族へ送付し、一部には手紙や写真も送付している。また家族等の来訪時には暮らしぶりや健康状態を報告し、緊急時には電話で状況報告や連絡を行っている。金銭管理については、利用者毎の出納帳に整理し、サインを貰っている。領収書は家族へ渡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等が出やすいよう、意見箱を自由ノートに代えて置いている。来訪時には家族等の意見、不満、希望等を引き出すように声かけをしている。第三者相談窓口については利用開始時説明をし、玄関にも見やすいポスターを掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の都合を出来るだけ配慮した勤務体制を作っている。やむを得なく職員が離職した場合、利用者へのダメージを最小限におさえるために十分な引継ぎの期間を設けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。一人ひとりのキャリアに留意し、生き生きと働きながら社会参加や自己実現が出来るように環境づくりを図っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権教育・啓発活動に取り組み、外部研修・内部伝達講習等で全職員の周知を図り、勉強会を実施している。事業所にテキスト等もあり、研修記録は全職員が回覧している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は全職員が日常的に学ぶことを推進している。外部研修は職員に紹介しており、受講者が伝達講習を行い、全職員が共有できるようにしている。また段階的に資格取得できるよう配慮している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県高齢者グループホーム協議会認知高齢者グループホーム地区ブロック、市グループホーム協議会、グループホーム連絡協議会に加入し、研修、会議に参加している。また、夏祭り時には他の同業者との交流を持つ等、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所の見学や体験入居、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。即利用となった場合は、利用者の身近なものを持参してもらい、本人の状態を把握し職員で話し合い不安を最小限にするよう工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑仕事、散歩等を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらったり、歌や謡い、裁縫、編み物、スケッチ等利用者の得意分野で力を発揮してもらい、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には動きや表情で、トイレや体調の変化等を把握し、家族等の情報も得て、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの24時間アセスメントまとめシートを作成し、利用者、家族等、関係者の意見やアイデアを活かして介護計画を作成している。介護計画は家族へ説明を行い、同意の押印署名がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月及び利用者の状態変化に応じて随時の見直しを行い、家族等へ連絡している。その都度署名押印を貰っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時には家族・医療機関と協議し、情報交換に努めお見舞に伺い、早期退院に向けて連携を図っている。また家族等の状況により通院等の必要な支援は柔軟に対応している。台風時は独居の高齢者が事業所に宿泊されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族等の希望するかかりつけ医の受診支援をしている。主治医が月2回往診しており、家族等と受診結果を共有し家族連絡ノートに記録している。また24時間体制で医療機関と連携を取っており、利用者はいつでも適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針があり、利用時に利用者・家族等に説明を行い、意向を伺っている。重度化した場合の意向確認書、終末期生活支援に関する覚書を事業所で作成し、利用者・家族・かかりつけ医・職員で合意を図り全員で方針を共有している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修等で全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや日常的にプライバシー確保を心がけ、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や気持ちに沿った支援をしている。散歩や心ゆくまでのおしゃべりを楽しめる等、その日の状態や思いに配慮しながら希望にそった支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片づけを行っている。食事は同じテーブルで、利用者と同じものを楽しく食べている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	実施時間はあるが、希望に合わせ毎日何時でも入浴支援が出来る体制がある。入浴拒否の利用者には、タイミングをはかり再度声かけをする等して、楽しく気持ちよく入浴出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、料理、畑仕事、手芸等利用者の経験や知恵を発揮してもらう場面作りをしている。手芸品は展示しスケッチの得意な利用者には紙芝居を描いて貰っている。さらに楽しんで貰うため、利用者がお化粧品ドレスを着用する機会を作った際は、大変喜んでいただいた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候に配慮して、概ね毎日の散歩、月2回の花見等のドライブ、買い物等日常的に戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中の居室や玄関の施錠はない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りや付き添いを行っており近隣の協力体制も出来ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。また、地域住民へ呼びかけ、消防署の協力による各年1回の避難訓練と救急救命指導、及び毎月の一部利用者も含めた事業所独自の避難訓練を行っている。食料・飲料水・備品を準備している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実	○印	取り組みを期待したい内容
外部	自己		(実施している内容・実施していない内容)	(取り組みを期待 したい項目)	(すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好を考慮し、職員が作成している。また年1回はかかりつけ医のアドバイスやチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に地元小学校交流時の写真や生徒からの手紙等を掲示、利用者や職員と共同作業の手芸品やちぎり絵の力作が飾られている。また季節の花も生けられ家庭的で居心地よく過ごせる工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い慣れた鏡台、家族等の写真、時計、椅子、手芸品、メッセージカードなどがあり、安心して居心地良く過ごせる配慮をしている。遠方以外の家族は頻繁に訪問しており季節の服など整理をしている。		

※ は、重点項目。